医工連携の基盤整備とその実践（1969～2007年）

年	研究所の変遷	教育と対外活動	研究・技術開発
1969	5月　日本心臓血圧研究所研究部2階に「医用技術研究施設」発足、三浦茂初代教授が施設長に就任	7月　医療産業技術者養成カリキュラム(後に医用工学カリキュラム、バイオメディカル・カリキュラム(BMC）と改称）を開始	
1970	10月　総合研究所に移転 医学教育用視聴覚教材作製室を開設	本学2学年向けの医用工学(ME)の講義を実施	
1976	5月　「医用工学研究施設」に改称、櫻井靖久教授が施設長に就任		人工臓器をはじめとする医療機器とバイオマテリアル研究を開始
1978		1月14日　櫻井教授が未来医学研究会を設立	
1979			ミクロ相分離構造を有するブロック共重合体が抗血栓性を示すことを発表
1982			櫻井教授、鶴田教授（東大）が編著書の日本初のバイオマテリアル教科書「バイオマテリアルサイエンス第1集、第2集」を発行
1983	本部棟2階（現在の総合研究棟）に移転		
1987		櫻井教授が日本バイオマテリアル学会賞を受賞	
1988		櫻井教授が日本バイオマテリアル学会会長に就任（1992年まで）	外部刺激で応答するインテリジェント材料の研究を開始
1989	東京理科大学、東京大学、早稲田大学、上智大学と共同で国際バイオマテリアル・サイエンス・センター（ICBS)を設立		2月10日　温度変化で培養細胞を剥離させる温度応答性細胞培養基材の発明・特許出願、世界初の細胞シート再生治療の幕開け
1990			1月　抗がん剤内包高分子ミセルを発表、世界初のナノテクノロジーによるDDSの幕開け
1992		岡野助教授が日本バイオマテリアル学会賞（科学）を受賞	
1995		櫻井教授が高分子科学功績賞を受賞	3月　温度応答性くし形ゲルの収縮特性をNature誌に発表
1996		櫻井教授がFounders Award for the Controlled Release Societyを受賞	1月　温度のみでの生体分子を分離する完全水系温度応答性クロマトグラフィーを発表 6月　高分子ミセル技術を基にナノキャリア株式会社が創立 10月　日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業「組織構築のためのバイオマテリアル」が開始（2001年3月まで）、細胞シート工学の概念を提唱
1997		岡野教授が米国バイオマテリアル学会Clemson Award for Basic Researchを受賞 岡野教授が高分子学会賞を受賞	6月　温度応答性ミセルを発表
1998	NEDO「医療福祉機器技術研究開発プロジェクト用総合評価研究ラボシステム開発事業」によるME連携ラボを設置		ME連携ラボでのインテリジェント手術室の開発
1999	4月　岡野光夫教授が施設長に就任	櫻井教授が日本バイオマテリアル学会科学功績賞を受賞	
2000		早稲田大学との学術交流協定を締結、両大学間で定期的なセミナーを開催 岡野教授が日本バイオマテリアル学会会長に就任（2004年まで） 岡野教授がFounders Award for the Controlled Release Societyを受賞	3月　オープンMRIと手術ナビゲーションシステムを備えたインテリジェント手術室の臨床稼働 4月　温度応答性多孔質膜を発表 11月　NEDO「脳腫瘍完全摘出システムの開発」が開始（2003年3月まで）
2001	4月　「先端生命医科学研究所」に改称、岡野光夫教授が所長に就任、伊関洋助教授らの先端工学外科学分野（FATS）、遺伝子医学分野が新たに創設	4月　大学院先端生命医科学系専攻を開設、早稲田大学大学院生命理工学専攻との大学間協定に基づく「連携大学院」を開始	5月　細胞シート工学の技術を基に株式会社セルシードが創立 12月　JST-CREST「新規組織再構成技術の開発と次世代バイオセンサーの創製」が開始（研究代表者 岡野光夫教授）（2007年3月まで）
2002			2月　自発的に拍動する積層化心筋細胞シート組織を発表 12月　NEDO「組織再生移植に向けたナノバイオインターフェイス技術の開発」が開始、カートリッジ式自動培養装置を開発（2007年3月まで）
2003	7月　文部科学省21世紀COEプログラム「再生医学研究センター（細胞シート工学を基盤とする臓器再生医療の発展）」が採択される（拠点リーダー 岡野光夫教授）（2008年3月まで）	横山助教授（現 慈恵医大教授）が第3回日本DDS学会永井賞を受賞	角膜上皮再生の臨床研究開始（阪大眼科との共同研究）、世界初の細胞シート再生治療
2004	2月5日　文部科学省ハイテクリサーチ・センター(HRC)整備事業により巴寮横にHRCが竣工	6月　村垣助手、伊関助教授、大和助教授、丸山助手、中村助手(現 東京医科歯科大教授)、高倉元学長が第18回先端技術大賞 産経新聞社賞を受賞	1月　温度変化でアフィニティーを制御する温度応答性培養皿を発表 6月　微細加工技術による共培養細胞シートの作製を発表
2005		早稲田大学との連携施設の構想について議論を開始 9月20日　岡野教授が第2回江崎玲於奈賞を受賞 12月9日　女子医大と早大が国有地（政策研究大学院大学跡地）7,017平米を取得し、新たな研究教育施設を建設すると発表	
2006	7月　文部科学省イノベーション整備事業先端融合イノベーション創出拠点形成プログラム「細胞シートティッシュエンジニアリングセンター(CSTEC)」開始（拠点リーダー 岡野光夫教授）（2016年3月まで） 11月19日　東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設（TWIns）起工式	7月　岡野教授がCRS Nagai Innovation Awardを受賞	
2007	4月　文部科学省ハイテクリサーチ・センター（HRC）整備事業「未来医療実現のための先端医科学研究センターの設立」に採択（2012年3月まで）	11月　伊関教授、村垣講師らが第2回モノづくり連携大賞 特別賞を受賞	6月　肝細胞シート組織を異所的に移植・生着させることに成功、Nature Medicine誌に掲載 7月　ゼラチンスタンプ法による積層化細胞シート組織の構築法を発表 心筋再生治療の臨床研究開始（阪大第一外科との共同研究） セルシード社が角膜上皮再生治療のフランス治験開始